

日本共産党府会議員団は、荒巻禎一知事あてに、「JR西日本関西本線のダイヤ改正に関して、府が利便性の確保に特段に努力することを求める申し入れ」（2月9日）、及び「府立医科大学附属病院における結核医療体制の縮小計画の中止をもとめる申し入れ」（2月15日）を行いましたので、紹介いたします。

JR西日本関西本線のダイヤ改正に関して、府が利便性の確保に特段に努力することを求める申し入れ

JR関西本線は、笠置町、南山城村にとってほとんど唯一の公共交通機関であり、住民の足として、また地域の発展にとって重要な鉄道として、利便性の向上が緊急に求められ

進に努力されてきました。

ところが、今年三月のダイヤ改正にともない、列車本数で12本の減便、第4土曜日昼間時間帯の5時間もの列車運休、そして笠置駅の無人化が地元で提示されました。沿線自治体では、地域住民及び観光客の利便性の確保という点から、とても受け入れがたいと表明され、見直しを強く要望されています。

京都府としても、このような状況をふまえ、府民の足を守り地域の発展を促進する立場から、以下の項目について、JR西日本に対して強く要望し、利便性の確保、充実に努力されることを求めるものです。

記

- 1、列車体系の見直しを撤回すること
- 2、笠置駅の無人化計画を撤回すること
- 3、第4土曜日の昼間の運休計画を中止すること
- 4、地域活性化と過疎化解消のため関西本線加茂駅以东の電化を促進すること